

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100739		
法人名	株式会社 あいの里		
事業所名	グループホーム矢野目 吉		
所在地	福島県福島市南矢野目字上戸内7-3		
自己評価作成日	平成30年12月23日	評価結果市町村受理日	令和元年7月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀内15番地の3		
訪問調査日	平成31年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あいの里には三大行事があり、誕生日会・敬老会・クリスマス会には入居者が楽しく過ごせるよう、本社とスタッフが丸となり計画し実践に繋げている。誕生日会のご家族も招待し、その方の思いが詰まった思い出に残る誕生日会となっている。
入居者の希望に添った、穏やかで安心安全な自分の居場所を入居者様が見つけられるよう、職員は日々取り組んでおります。
畑で季節の野菜を作り入居者様に食べる楽しさを味わって頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 職員間のコミュニケーションが良く、職員が連携を図りながら利用者本位のケアに努めており、利用者は穏やかで安心した生活を送っている。不穏になってしまう利用者とは本人が納得するまで一日に何回も一緒に外出している。
2. 利用者・家族の意向に合わせ事業所での看取りが行われている。終末期は、24時間対応できる在宅緩和ケア医療機関と連携し、全職員で利用者が最後まで安心した生活が送れるよう支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事あるごとに理念を唱え、実践に繋がるように職員間で共有している。	法人理念を事業所内に掲示し、全体会議や行事等で確認し、理念を共有しながら日々の実践につなげている。しかし、30年度ユニット目標は作っているが、事業所独自の理念は作成されていない。	地域密着型を基本にした法人理念を基に全職員で現状を踏まえた事業所独自の理念を検討し実践に活かしていくことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催しには必ず入居者様と一緒に参加し、交流をしている。毎年ある芋煮会ではいつも歌を披露し、地域の方々と楽しく交流している。春祭りには子供山車をホームまで来ていただき入居者様が応援している。	地域行事(芋煮会、長寿会の作品展、春祭り等)には、利用者と参加し、事業所行事には地域のボランティア(フラダンス・ギター演奏・尺八演奏・アンサンブル四季の演奏、ちまき作りの手伝い等)に来てもらう等、双方向の交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	北信西地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加し地域の方々に認知症の理解の発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議は活発な意見交換ができるよう工夫して、本音で話し合えるようにしている。貴重な意見を頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に開催され、事業所の現況・活動・事故・ヒヤリハット・評価結果等の報告をし、会議のメンバーから意見を頂き、サービスの向上に活かしている。ちまき作りの手伝いはメンバーの申出があり、協力が得られたものである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北信西地域包括支援センター主催のケア会議や定例会には必ず出席し協力関係を取り組んでいる。	外部評価結果や事故の報告をしたり、生活保護受給者の手続きや報告・相談をし、市の生保担当者が事業所を訪問する等、市の担当者と協力関係を築きながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで鍵をかけることはしていない。また、毎月のユニット会議で不適切チェックを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化の指針を作成し、毎月委員会を開催し職員に周知徹底している。また、研修会を開催したり、日頃の取組内容を不適切ケアチェックリストで振り返り、身体拘束をしないケアに努めている。職員の見守りに対応で日中、玄関に鍵をかけない自由な暮らしを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、職員間で共有している。また、ヒヤリハットの提出によりホームでの虐待を見過ごされないよう注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人と交流を持ち学ぶ機会を設けている。また、必要性を感じたときはアドバイスをを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分な時間をかけて説明を行い不安の無いよう理解・納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族や入居者様に出席して頂き、要望や意見を言うていただき、運営に反映させるようにしている。	家族の面会時、電話連絡時、運営推進会議・行事出席時に職員が積極的に、意見・要望を聞くように努めている。把握した要望等はサービス向上に活かしている。共有空間の掲示物が少ないのでは、との意見を受けて掲示物を増やした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議では必ず社長や部長が出席しているので意見や提案は直接きいてもらい、運営に反映させている。	日常業務、職員会議や個別面談の中で意見等を聞く機会を設け、出された意見や要望を運営に反映させている。日頃から職員間のコミュニケーションはよくとられており、どのような意見等も言いやすい雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の管理者会議では職員の勤務状況などを聞いてもらっている。また、職員が疑問に思った時などは直接代表者と話ができるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社主催の研修には管理者はじめ職員が意欲的に参加できるような機会を設けている。また実務者研修には今年は4名の参加者を出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議や北信定例会に参加し同業者との交流を深めている。グループホーム協議会会議に参加し他の事業所と交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学や申し込みに来所された時は困っていることなど納得するまで話を聞いている。入居後も職員間で情報を共有し、本人の安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望のご家族が、入院している病院に対し疑問を持ち不安に思う事に耳を傾けて関係づくりに努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人暮らしの入居希望の方が、どうすれば不安なく入居できるか、ケアマネージャーやご家族の方と最善の方法を話し合い、入居していただいた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の清掃や食事作りなど、入居者様と職員が一緒に行う事を常に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつもご家族の協力の下、どうすれば入居者様が安心してホームで過ごしていけるかを話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居する前のお友達や近所の方が自由に来所出来楽しくすごせるよう、支援している。	職員対応で美容室へ出かけたり、家族の協力を得ながら外食・温泉・自宅への外泊や墓参りに行く等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、家族や友人・知人等の訪問を受けた時は、お茶を出し、ゆっくり過ごしてもらうよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないように、常に声をかけて一緒に過ごし、歌や体操などをして楽しく過ごしていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで亡くなられた入居者様のご家族がいつでも来て頂けるような話し合いをしている。足が向いてしまうと来所されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が美容院や郵便局に行きたいとの訴えがある時はなるべく本人の希望に応えられるよう一緒に行っている。	一緒にお茶を飲んでいる時等、日常の何気ない会話の中から思いや意向を把握し、把握した意向等はユニット会議で検討し、支援に努めている。意思表示の困難な場合、利用者の表情・仕草等から推測し、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から生活歴は聞いている。入居されてからもご家族様との話し合い上でサービス利用の経過などを聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様のその日の状態を把握し、調理や掃除などをしていただいたり、傾聴をしたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様がどのように暮らしていきたいか本人やご家族と話し合い、主治医や看護師などにアドバイスを受け介護計画を作成している。	アセスメントに基づき利用者の現状を把握し、利用者・家族の思い等を踏まえた介護計画を作成している。居室担当者がモニタリングを実施し、介護計画を見直している。利用者・家族の意向や身体状況等に変化があった場合は介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録シートやヒヤリハットに記入して職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況に応じ、移動出来る手摺やエアーマットをレンタルできるようにした。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお年寄り作品展などに出品させてもらい、入居者様と一緒に出かけた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族との話し合いで、ご本人の状態の変化とご家族の希望により、かかりつけ医を変更した。その後状態は安定された。	利用者・家族の希望に合わせて、家族が対応するかかりつけ医への通院や事業所対応の協力病院の往診が行われている。受診結果は「病院診断・服薬記録」に記録し、コピーを家族へ送付している。また、重度化に伴い、往診に変更等をし、適切な医療受診ができるよう支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の様態が思わしくない時は、すぐに連絡をし相談をしている。看護日誌にて介護職員と看護師間で情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際には、ソーシャルワーカーや看護師さんと状態や今後について、家族も含めて話し合いをした。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面にて意向を確認している。状態変化時にはご家族と話し合い、意向を確認している。	入居時、利用者・家族に事業所の重度化対応指針を説明し同意を得ている。また、終末期の積極的な医療行為の意向を確認している。さらに、24時間対応の在宅緩和ケア医療機関と連携しながら利用者が最後まで安心した生活が送れるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	伝達講習を行い、急変時の対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員による防災訓練を行っている。地域の消防団の協力も得ている。	防災訓練の年間計画はあるが、職員不足により今年度は総合防災訓練(夜間想定訓練)が1回行われただけで計画通りの実施が出来ていない。災害に備え、食料・水等を1週間分備蓄している。なお、地域の協力体制が構築されていない。	職員誰もが利用者を安全に避難させることができるよう、計画に沿って防災訓練を実施することが望まれる。また、地域の方の理解や協力を得るため、運営推進会議の委員から協力を得るなど工夫が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議で不適切ケアチェックリストで話し合いプライバシーを損ねない言葉かけをしている。	毎月のユニット会議で、身体拘束適正化委員会による不適切ケアチェックリストを活用し、職員の意識への啓発と再確認をしている。また、利用者一人ひとりの人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねない介護に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューを決める際、食べたいものを聞き、毎日の献立に取り入れるようにしている。また、洋服を買いに行きたいとの要望があった時は一緒に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が入浴を希望した時は、時間に関係なく入浴していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	白髪染めの希望があれば近所の美容院に同伴したり、季節の変わり目に洋服を新しくしたいとの希望があれば一緒に買い物に出かけた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食材を切っただけだったり、味付けや盛り付け、食器洗い・食器拭きなど職員と一緒にしている。	食事前に嚥下体操を行い安全な食事摂取に心掛け、落ち着いて食事が出来るようCDやラジオを流す等の工夫をしている。また、テーブル・食器・トレイ拭き等、できる方が協力して行い、メニューは、利用者と話しながら希望を取り入れて作成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は個別に記録し、一人ひとりの状態を確認し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや介助を行っている。義歯洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導を行っている。また、その時々状態を把握し、トイレ介助を行っている。	入居時、家族から排泄習慣の情報を得たり、当初は定時トイレ誘導をしながら観察し、排泄パターンやサインを見極め自立に向けた排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維質の食材を多く使用するようにし、なるべく多くスポーツ飲料やお茶を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕食後に入浴したい、今すぐ入浴したいなどの希望に添った入浴を行っている。	入浴を拒否された時は、時間を置いたり、別な職員が声掛けをしてその時の気分に応じた工夫をしながら誘導をしている。また、身体機能が重度化した利用者へは、職員2～3人が力を合わせ対応する等、個々に合わせた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に眠りたい時は居室にて眠っていただいている。また、入居者様の生活のリズムで睡眠をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬の内容は職員全員が薬の説明書を読み理解しケアを行っている。薬の変更時には申し送りや日誌などに記入し、職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夏の暑い日にはノンアルコールで乾杯をしたり、餃子大会や芋煮会では入居者様に野菜切や味見などしていただき、楽しく参加し気分転換をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近くへの買い物の希望があった時はなるべく出かけるようにしている。できない時はご家族と相談して出かけられるように支援している。	近くの量販店等へ、日用品や被服の購入のために徒歩や車で出かけたり、花見・ブドウ狩り・紅葉狩り・バラ園等、季節に応じて外出行事があり、時には、外食を楽しんでくることもある。毎月の外泊・墓参り・外食・温泉等、家族と出かけている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者様はお金を持っておられないが、ご自分で所持している方は買い物時には支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から家族や親せきに電話をしたいとの訴えがあった時はその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓にはブラインドがあり、採光には注意を払っている。庭先の花を摘んでいただきホールに飾っていただいている。	通りに面した窓からは、人や車の往来や四季が感じられ解放感が有る。また、居間を中心として台所、スタッフルームが両脇に配置され、常に職員が目が届いている。また、炬燵をしつらえ、壁には季節を感じる展示物や利用者の作品が掲示されている。台所の家事の音や匂いから安らぎが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールはソファ席とテーブル席にわかれている。入居者様のその時の気分で座る場所が選べるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居前に使っていた家具や衣類などを持ってきていただき、引き続き安心した生活ができるように配慮している。とても気に入った食器を持ってきていただいた。	備え付けの家具の他、家族と相談して、馴染みの家具や仏壇を持参している。また、部屋に備え付けてあるトイレを安全に利用できるように、利用者の機能に合わせて、ベッドの向きを変えたり、手すりの設置や移動式手すりを利用する等の工夫をし、その人らしく落ち着いた暮らしが出来るよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に暮らせるように、共有スペースには手摺が設置されている。また、居室にも必要に応じて手摺が設置してあり安全に自立した生活が送れるように工夫している。		